

本指導案は、「2017年度 横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会」において横浜市立中学校の教員と横浜美術館が協働で作成しました。

横浜美術館コレクションを活用した鑑賞授業

美術科学習指導案

1. 題材名 **発見！ 謎の物体X**

2. 題材作品 クレス・オルデンバーグ 作《反転Q》
1977-88年 樹脂 高さ182.9×幅177.8×奥行160.0cm 横浜美術館蔵

3. 実施学年 第2・3学年

4. 学習指導要領との関連 B鑑賞(1)

5. 本題材について

クレス・オルデンバーグ作《反転Q》は、それが何であるか一見してわかりにくく、鑑賞者によって感じ方やイメージが多様になる作品である。他者の意見を聞くことで、多様な考え方を知り、見方を広げることができると、本作品を鑑賞題材に選んだ。立体作品は図版を見るだけでは理解が難しいため、実際に粘土を用いて体験的に作品にアプローチする方法を取った。また、意図的に《反転Q》という作品名を生徒に伝えないということを提案している。これは、作者の表現や意図や思いにとらわれることなく、自由で多様な発想を引き出したいと考えたためである。

6. 題材目標

- ・主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を想像していく意欲と態度を高める。
- ・美術作品の理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

7. 題材の評価規準

| 関心・意欲・態度 | 鑑賞の能力 |
|---------------------------------------|--|
| 主体的に作品を探求しようとし、班活動や発表に関心をもって取り組もうとする。 | 作品に対する自分の価値意識をもって批評し合い、よさや美しさを幅広く味わう。他者の意見を聞いて、多様なイメージや考え方を知り、作品の理解を深めている。 |

8. 準備

指導者：作品図版（様々な角度から撮影したもの）、ワークシート、黒紙粘土（通常の紙粘土でも問題ない）、粘土板、小バケツ（紙粘土に水を含ませて伸びをよくするなど）に使用する

生徒：筆記用具

9. 授業展開（全2時間）

| 1 | 学習活動 | 指導内容および留意点 |
|------------------|--|---|
| 導入 10分 | ① 図版を鑑賞し、その第一印象について、自分の考えを記入する。 【ワークシート 発問1】 ② 第一印象を学級全体で意見発表する。 ③ 本題材のねらいと流れを知る。 | ・ワークシートの文章を指導者が範読する。 ・立体であることと、サイズが伝わるように指導者が説明する。 ・見通しが立つように、本題材のねらいと活動の流れを説明する。 |
| 展開 (1) 40分 | ④ 図版を見て、「謎の物体 X」を紙粘土で立体的に表してみる。その時に気づいたこと、感じたことはその都度ワークシートに記入する。 【ワークシート 発問2左側】 | ・立体で表しやすくするために、様々な角度から見た作品の図版を用意する。 |
| 展開 (2) 20分 | ① 前回の授業を振り返り、ワークシートに記入したことを確認する。また、発問3（別の置き方にして感じ方が変わるか）を考え記入する。 【ワークシート 発問2・3左側】 ② 3～4人でグループをつくり個々の意見を発表、意見を共有する。班員の意見をワークシート発問2・3右側に記入する。発表者もあらかじめ決めておく。 【ワークシート 発問2・3右側】 | ・前回の授業で書き切れていない箇所があれば、記入するように呼び掛ける。 ・班でひとつの見解をまとめて発表するのではなく、それぞれから出た意見に触れて発表するよう、あらかじめ伝えておく。 |
| 20分 | ③ 各班の意見を発表する。聞いている人は他の班の意見をワークシートに記入する。 【ワークシート 他の班の意見】 | ・各班の発表時間は1分程度とする。 |
| まとめ 10分 | ④ 題材の目標を確認し振り返り、「謎の物体 X」の感想と授業の感想をワークシートに記入する。 【ワークシート 発問4】 ⑤ 「謎の物体 X」は、横浜美術館で鑑賞できることを知る。 | ・美術館へ行って、本物の作品をより深く鑑賞してみようと、興味を抱かせ授業を終える。 |

■指導案作成者からのメッセージ

《反転Q》の鑑賞をするにあたって、作品名を生徒に明かすかどうか、どのタイミングで明かすのかをチームで何度も議論しました。もし作者の動機がアルファベットのQの逆さまだと知ったら、そこで自由な発想が停止してしまうと考え、作品名を伝えないという結論に至りました。立体作品を自分たちの目でとらえて鑑賞する体験的、対話型のアプローチとして指導案を作成しました。美術について話すことが楽しいと思える人に育ってほしいという思いもあります。授業にご活用いただくと同時に、先生方のアイデアで、より良い授業に成長させていただけたら幸いです。

（指導案作成：横浜市立中学校教諭 菅野遥希／小林重之）